

## 高校野球投手の肘関節滑膜ヒダ障害の治療経験

○前田 周吾 (まえだ しゅうご)(MD), 山内 大生 (MD), 岩崎 弘英 (MD), 油川 修一 (MD)

青森労災病院 整形外科

### 【はじめに】

腕橈関節の滑膜ヒダは正常でもみられるが時に肘外側痛の原因となる。今回我々は超音波検査による評価が有用であった高校野球投手の肘関節滑膜ヒダ障害の2例を経験した。

### 【症 例】

2名とも高校2年生の投手であり、数ヶ月前より持続する投球時の肘痛を主訴に当院を受診した。どちらも痛みは投球動作での加速期からフォロースルー期で生じていた。肘関節可動域制限はなかったが完全伸展時の肘後外側痛を認め、腕橈関節後外側に圧痛を認めた。単純X線写真、CT、MRIでは明らかな異常所見を認めなかった。超音波検査では腕橈関節に滑膜ヒダが存在し、肘関節の動きに伴い腕橈関節に挟み込まれる所見を認めた。腕橈関節後方より滑膜ヒダに局所麻酔剤によるブロック注射を行い、シャドウピッチングでの疼痛消失を確認した。リハビリテーションで全身のコンディション評価・修正を行い、受診後1ヶ月で発症前の競技レベルまで復帰することができた。

### 【まとめ】

肘関節滑膜ヒダ障害の病態は滑膜ヒダの性状・大きさ・部位などにより多様性があると報告されており、超音波検査による動的評価、ブロック注射による疼痛消失が診断に有用であった。